

# 年間第9週・金曜日

## 77 守護の天使

— 絶えざる守護の天使の現存。 — 信心。日常生活における、又使徒職における助け。 — 内的生活においてその助けに頼る。

2024/04/28

年間第9週・金曜日

77 守護の天使

— 絶えざる守護の天使の現存。

— 信心。日常生活における、又使徒職における助け。

— 内的生活においてその助けに頼る。

## 77. 1 守護の天使の絶え間ない実在

人間や目に見える世界のすべての被造物と同様に、神は、靈的被造物である天使を生み出し、主の善を更に伝えることを意図されました。

物質的、身体的実体のない純粹な靈である天使は、創造におけるすべての被造物の中で最も完全なもので、一方、その知性は人間にはない単純さと鋭さを持ち、その意志は人間の意志よりもっと完全です。他方では、すでに至福直感に上げられているので、神を顔と顔を合わせて見る栄光を与えられた被造物です。本性と恩恵から来るこの卓越性によって、天使たちは通常の奉仕者とし

て、つまりこの世を統治するにあたり、通常は第二原因（被造物）をお使いになる神の奉仕者に任命され、また人間と人間以下の被造物に影響を与える力を付与されたのです。聖書がこの靈的な存在に与える名前を見れば、啓示の中で最も重要なことは、人間との関係における天使の役割に関する真理です。天使とは使者のことです<sup>1</sup>。

彼らは、新約、旧約聖書の多くの場面で言及されており、その存在は、神の人間に対する救いの行いから切り離すことのできないほど明らかです<sup>2</sup>。

天使は人類史上の驚くべき出来事に介在するだけでなく、人間の個人的な生活においても絶えず活動しています。神は摂理によって人類の守護と一人ひとりの人間を援助するという使命を天使に与えました<sup>3</sup>。天使は、私たちに対する神の優しさのも

う一つのしるしです。ですから、天使は私たちを助け、励まし、強めてくれます。私たちをあらゆる良いものに引きつけ、信頼と穏やかさを保つように励まします。旧約聖書の中の一つの書全体がトビアとその家族に大天使聖ラファエルによって与えられた助けを物語るように捧げられています<sup>4</sup>。聖ラファエルは、天使の本性を知らせることなく、長い困難な旅を若いトビアに伴います。彼は非常に貴重な助言を与え、数えきれないほど彼に尽くしました。物語の終わりに自分を明らかにします。

「わたしは、栄光に輝く主のみ前に仕えている七人の天使の一人、ラファエルである」<sup>5</sup>。神はその家族の正しい行いをすべてご存じです。あなたが祈った時、その祈りを主のみ前で執り成しをし、あなたがためらわずに出て行き、死者を手厚く葬ったとき、あなたの良い行いは私が隠させていたのではなく、私はあなたと共にいた<sup>6</sup>。

私たちの一生も長い旅路であり、その終わりに恩恵の助けによって、神である父の家にたどりつく時、守護の天使が私たちに次のように言うでしょう。「わたしはあなたと共にいた」。守護の天使は、一人ひとりが神に招かれ、超自然的な目的に到達するように助ける使命を持っているからです。神はモーセに言わされました。わたしはあなたの前に一人の天使を遣わす。あなたを道で守らせ、そして、わたしの備えた場所に導かせるために<sup>7</sup>。非常に知的に効果的に役目を果たす天の王子たち（天使）の世話のもとに私たちを置きたいと望まれていることを、神に感謝しましょう。私たちが天使に持つ尊敬を度々天使に話しましょう。

## 77. 2 信心、毎日の生活と使徒職における助け

使徒言行録は、天使がどのように人間の世話をするか教えるいくつかの

出来事を述べています。使徒たちを牢から救い出したこと、ヘロデの手からペトロを解放したこと、助祭フィリポをカンダケの大臣もとへ導いたことなど<sup>8</sup>。

聖ヨハネ・パウロII世は、天使に関するカテキズムで、これらの出来事を例に引いて評しました。「私たちは、人間の善のために天使に委ねられた職務について、教会がどれほどはっきりとした確信を持っているか理解することができます。この職務をとおして、教会は、守護の天使への信仰を告白します。そして、特別の祝日には典礼の中で崇敬します。教会は私たちが、たとえば、「神の天使」を呼び求めるような一つの祈りを度々祈り唱えることで、その保護に頼るべきだと勧めています。この祈りは、聖バシリオの美しい言葉の宝箱のようです。「信者は誰でも傍らに、いのちへと導いてくれる天使を、守護者であり牧者である天使

を持っています」<sup>9</sup>。多くのキリスト者が、両親の口から学んだこの守護の天使に対する祈りは、一般的に、いくらか変えられて英語やその他の言葉に訳されていますが、古いラテン語と日本語対訳の祈祷文には、次のような祈りがあります。

（口語に換えると次のようになるでしょう）。「私の守護者である主のみ使いよ、主の慈しみによって、あなたの保護に委ねられたわたしを、今日（今夜）、照らし、守り、導いてください」。これは、幼い子どもたちでも唱えることのできる短い祈りです。また、すでに生涯の大半が過ぎ去りはしても、同じような保護と逃れ場が必要な時、私たちを助けてくれる祈りです。今日、頻繁に守護の天使に話しかける決心をするなら、その存在に必ず気づきますし、天使を念祷することで多くの助けと恩恵を受けるでしょう。靈的助けと同様に、毎日の生活でのちょっとした必要性がある時も、助け支えてくれ

るでしょう。失った物を捜す、思い出す必要のあることを思い出す、時間どおりに着く。神の栄光に秩序づけられているすべてのものと人間的善であるすべてのものは、そのように秩序づけられ、方向づけられているはずだからです。私たちは、守護の天使の助けに頼ることができます

10  
—。

私たちはまた、友だちの守護の天使と関わりを持つこともできます。特に、友だちを神に近づけ、天使から離れないようにと彼らに働きかけることで関われます。例えば折良く会話を変えるようにほのめかす、ゆるしの秘跡や、修徳のいくつかの手段や教義上の形成を受けなければならないイニシアティブを維持すること等です。

古代から、キリスト教信仰によつて、至聖なるご聖体が置かれるところならどこでも神聖な秘跡でイエス

を常に崇(あが)める天使が存在すると信じられてきました。一般的な信仰を手短かに表現しているキリスト教芸術では、顔を翼で覆って怪物を取り囲む天使が度々描写されています。彼らは、自分を天使の前では価値のないものとみなしているからです。天使の威厳は何と偉大なものでしょう！聖櫃に實際におられるイエスとともに大きな愛を持って付き合うとともに、可能な限り最大の崇敬を示すことを教えてくださいと、天使にお願いましょう。

## 77. 3 内的生活のために助けを願うこと

靈的本質を持つ完全さがあるにもかかわらず、天使は、神の力と知恵は持っていません。彼らは私たちの良心の内を読むことはできません。ですから、何らかの形で表明してやらなければわかつてもらえないということです。声に出す必要はありません

んが。しかし、心の内で天使に向かうことが必要です。天使の知性は、私たちが明確に想像し、考えることを知る能力を持っているからです。自分の守護の天使との深い友情を育むことが勧められています。

感覚的には、守護の天使との会話は、この世の友人との会話より確かににくいものです。しかし、その効果ははるかに優れています。天使の私たちへの忠告は神から来るもので、人間の声よりもっと深い影響を私たちに及ぼします。私たちのことを聞き、理解する能力は、最良の友人より計り知れないほど優れています。常に私たちの傍にいるからだけではなく、私たちが必要とするものや表現することをさらに深く洞察するからです。

私たちの内的生活に与えることのできる助けは非常に貴重です。信仰を高め、精神的な祈りや口祷の祈りに

向かわせ、特に、神の現存を保つようになります。仕事や神との付き合いですっと気が散っているなら、守護の天使に願えば、私たちの想像を止めてくれるでしょう。何とかして向上する決意を、また、今まで効果がないままだった良い望みを具体的にする簡潔で実際的な方法を示唆してくれるでしょう。守護の天使に、無作法なあなたがどう表現してよいかわからないことを、主に伝えてくれるように信頼して願うことができるでしょう<sup>11</sup>。守護の天使とともに良心の糾明をしていくと、徹底して単純に誠実に生きていくよう靈的指導として、守護の天使に相応しい言葉私たちに示唆してくれるよう願うことができます。靈的に弱っている時、守護の天使に接することで私たちはかなり落ち着くでしょう。

守護の天使の使命は、この世で始まり、天国で成就します。なぜなら守護の天使との友情は、永遠に続くよ

うに定められているからです。その友情の主な内容は、この世で始まった超自然的友情の絆は、天国で永遠に続くほど親密で個人的なものです。自分の生涯を神に説明するまさにその時、守護の天使は私たちの素晴らしい味方です。「守護の天使は、特に勝れた証人として、常に私たちに付き添ってくれる。私審判のとき、一生の間にあなたが示した主に対する濃やかな心遣いを思い出させてくれるのは、守護の天使であろう。それどころか、敵の恐ろしい訴えに駄目だと思った時も、自分では忘れてしまっていても、あなたが父なる神、子なる神、聖靈なる神に示したあの心の内、あの愛のしるしを提示してくれるのもあなたの天使である。だから、決して守護の天使を忘れないようにしなさい。そうすれば、今も、あの決定的瞬間にも、天の王子（天使）があなたを見捨てることはないだろう」（『拓』693）。守護の天使は、この世で、

また、後に続く永遠でも私たちの最良の友になるでしょう。

<sup>1</sup> 聖ヨハネ・パウロII世, General Audience, 30 July 1986

<sup>2</sup> 聖ヨハネ・パウロII世, General Audience, 9 July 1986 参照

<sup>3</sup> Catechism of the Council of Trent, IV, 9, 4

<sup>4</sup> First Reading of the Mass, Year 1, Tob 11:5 – 17 参照

<sup>5</sup> トビト12・15

<sup>6</sup> トビト12・12 – 14 参照

<sup>7</sup> 出エジプト記23:20

<sup>8</sup> 使徒言行録5:18 – 20; 12:5 – 10; 10:3 – 8; 8:26 参照

<sup>9</sup> 聖ヨハネ・パウロII世, General Audience, 6 August 1986

<sup>10</sup> G.Hubert, My Angel will go before you 参照

<sup>11</sup> 聖ホセマリア・エスクリバー,  
『鍛』, 272 参照

---

pdf | から自動的に生成されるドキュメント <https://opusdei.org/ja-jp/article/T0-IX-kin/> (2026/01/26)